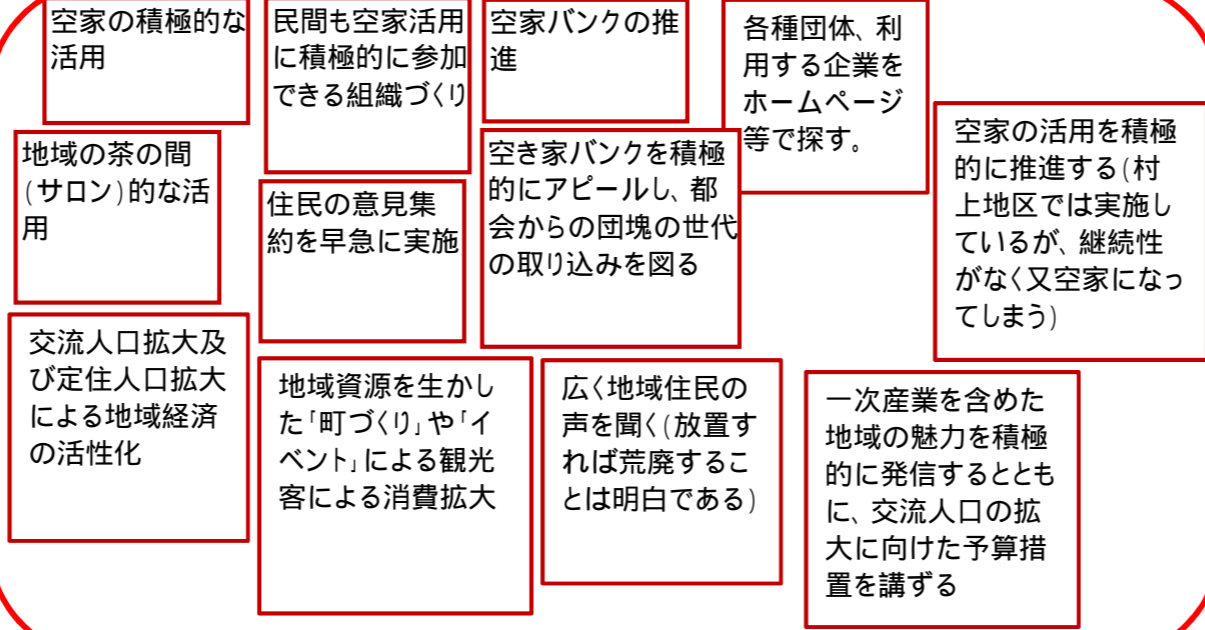


空き家の増加 まちの空洞化 空き公共施設の活用

(資料2) まち(むら)の空洞化

・商店街・住宅地域ともに空家が増え、過疎化が激しい。
 ・空家が多く活気がない。
 ・人口減少特に生産人口の減少により、村上地域の消費全体が縮小傾向にあり、将来的に商店及び商店街の衰退が危惧される。
 ・廃校となった山辺里・門前谷小学校の有効活用

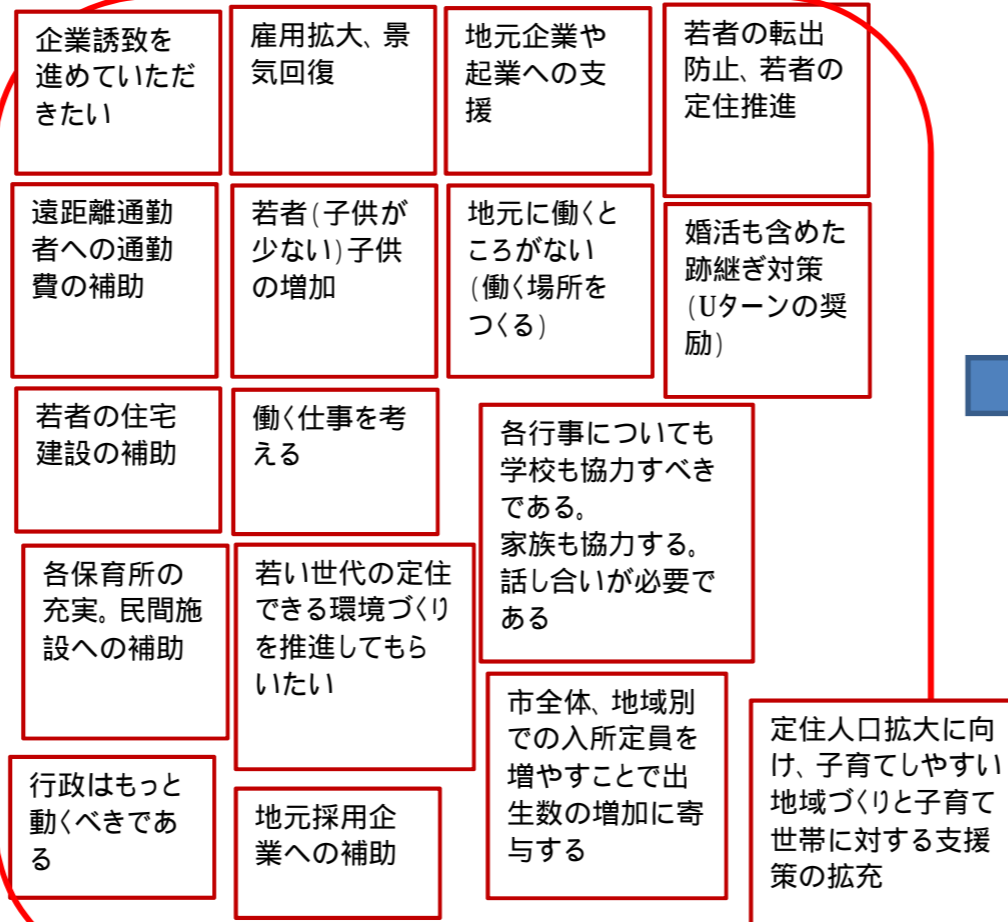


・住宅としての利用のみでなく、地域の茶の間や町内集会施設に利用
 ・空き公共施設の活用については、有効的かつ計画的に進められるよう要望
 ・団塊の世代をターゲットにU・ターンを働きかける
 ・地域の情報を発信

暮らしの維持・継続 雇用の確保 子育て支援

(資料2) 働くための環境整備

・地域(町内)に住民が少なくなり、年々戸数も減少し、何事にも維持・継続の不安がでている。
 ・少子高齢化はどの地区も同じだと思う。この地域には特に、若い世代が少ない。
 ・市民生活の将来を支える若者の人口流出
 ・少子高齢化によって祭りを含めて各町内行事に支障がでてきた
 ・働く場が少なく若い人の定住が進まない。過疎化の要因となっている。
 ・若者が安心して生活できる基盤となる正規雇用の職場が少ない
 ・活気不足の原因は、働き手の年齢層が市外、県外に就職することにあると思う(一因かもしれないが)
 ・0歳～3歳未満時の保育施設の不足



・地元から雇用を生み出す企業(起業)への支援策
 ・起業を目指す人への支援
 ・企業誘致のための研究
 ・若者の住宅建設への補助や遠距離通勤者への補助
 ・保育園の時間延長、休日保育等の要望
 ・子育て世代の要望等を調査
 ・結婚、家族、地域のことを考える講演会等の開催
 ・若者が参加しやすい仕組みづくり

担い手の確保 安心安全な暮らしの確保

・各町内に自主防災会が設立されてきているが、災害時に機能するか心配である。
 ・災害対策基本法と自主防災組織。
 防災のために住民が自主的に組織し、自主的に活動する組織ではあるが、防災訓練では何をやってよいのかあまり住民には伝わっていない。また防災訓練に参加されるかたも少ないのではなかろうか、昼間なので参加できない方もおられると考える。そして昼間自宅にいないとすれば昼間地域にいる人でどう対処するかを考えておかなければならないが、その辺の取り組みが遅れているのが現状ではないのか。

・町内活動と個人情報
 町内活動を進めていく中で、一人暮らしのお年寄りに対し町内がサポートしなければならない中で個人情報保護法が、プライバシーに関わる情報の管理がいっそう厳しくなって、町内活動を憚り妨げている。大災害時に自主防災会がはたして対応していけるのか大きな課題がある。

・市街地を少し離れると該当が少なく、とても暗く、夜安心して外出できない。
 ・冬場の積雪による朝の通学路の確保がされていない。
 ・高齢化と新規加入者が不足で食生活改善推進協議会の運営に支障をきたしている。
 ・町内の役員のなり手がいない・若者の参加少ない。
 町内会の役員をやってくれる人がいないのは、どこの町内も同じ悩みになっている事と思う。原因の一つに同じ人が長期に渡って役員を務めると、健全で活力のある地域活動が出来づらくなっていく。仕事が忙しくて役員を務める余裕がない、地域になじめない、町内の意義が実感できない。このような事がなり手がいない事につながっているのではないのか。

医療・医師の確保

・医療への不安は年齢が高くなるほど大きい。医師確保(故郷に戻る)方法を強力に進めたい。

介護施設入居者の増加

・介護施設の入居者の待機が増加している

(資料2)
地域の担い手参画者の確保

(資料2)
生活環境に対する不安

(資料2)
地域の安心安全

人材を育成してほしい

青壮年と小・中・高生の啓もう

健康管理と予防、健康寿命を維持する

現在1年おきの栄養教室を毎年にする

各防災拠点の充実

財政も厳しいでしょうが通学路は優先的に除雪をお願いしたい

毎日の食事バランス等に興味を持ってもらう企画

街灯の増設

緊急時に必要な情報をあらかじめ調査し保管しておく必要がある。また、災害時にすぐさま対応する担当者などの役割を決めておく。生命にかかわる場合により柔軟に対応出来る、個人情報保護法の改正を求めていくべきである

地域を考慮した避難訓練の実施

なぜこのような現象が起きているのか、町内には有能な若者は必ずいるはずですが、そのような若者が運営出来る町内会の仕組みづくりが大切ではないだろうか、若者に任せる大きな信頼こそが一番に必要であると思う。役員選考委員会をつくり委員会が推薦し、総会で承認していくなどの機構改革も大事なのでは無いだろうか

まずは防災会で地域の環境をよく知る事から始まる。なによりも町内イベントなどを通して住民同士の意思疎通をはかり、住民同士がとても仲の良い地域にすれば災害にも強いまちになる。持続可能で実質的に機能する自主防災組織を構築していく為、行政がこれらに対し物心両面の支援を行っていく必要がある。

避難訓練検討委員会の設置

- ・自主防災組織への支援
- ・緊急時に必要な情報の確保
- ・地域を考慮した避難訓練の実施
- ・町内・集落ごとや時間帯等きめ細かな訓練ができないか検討

市民・行政の相互の理解 まちづくりに対する意識の差

・道路ポケットパーク・公園の管理。
 地域の人たちの要望などで作られたものであれば、町内で清掃し、定期的な管理や修理の必要が理解できるのだが、公共の道路や公園等の施設になると複雑で理解ができにくい場合も出てきてしまう、自分たちに不都合な事が起こると、行政に苦情をいうような身勝手さが見受けられる現状があり、落ち葉の掃除が大変だから街路樹を切ってほしいなどの要望も出ていると聞いている。

・行政支援によるサービスの地域格差の是正
 ・協働のまちづくり。

今進められている地域まちづくり計画は、地域と行政が共同していく計画である。住民が地域の課題に主体的に取り組み、解決していきそして自己完結の出来る新しい自治の仕組みである。地域のことは地域で決めていく、自主自立の理念を行政と住民が共通認識していかなければならない。現状と課題を市民と行政が共に認識し、多様な見地から幅広い意見や行動に、連携していくことがとても重要になっていく。この村上に住んでいてよかったと思えるような町にし、理念にもあるように次世代が安心して住み続けられる環境のあるまちを目指していかなければならない。

・地域住民のまちづくり意識の高揚

私たちが暮らすこの地域を少しでも美しいまちである為に、個人や有志で自発的に清掃活動をしている、ボランティアの人たちが、日々ご苦労されている姿を見ると頭が下がる。清掃活動は持続可能な活動にしなければ意味をなさない、このような活動は行政やまちづくり協議会との連携と進めていくべきと考える。

村上地域自治振興祭の実現

文書等の振興祭(展示も含め)

全体発表会

地区別・部門別発表会

利便性の向上、利用客の増加

・まちづくり協議会連絡会の開催

着地型観光の推進 いこいの場の確保 景観整備 駅周辺の整備

・高速道路が朝日まほろばIC迄の開通、更に山形県へと延伸すると村上地域を素通りする車が増大する。
 ・観光客数の増加、着地型観光の創造
 ・地域の顔である村上駅周辺の環境整備が遅れている。
 ・三面川河川公園の更なる利用
 ・お城山周辺が広く市民のものとなっていない気がする。
 ・道路整備されていない市街地沿道の緑地(並木等の樹木)が少なく潤いがなく乾いた感じを受ける。
 ・村上駅西口の着工はあるの

村上地区内のICで降り、登って(乗)もらうべく対策を立てる

玄関先、道路沿いの美化推進

観光地を巡るさまざまなコースの整備等

域内資源のネットワーク化、観光の美化

住民参加型の行事(観光客と住民の触れ合いの場づくり)

町を訪れる観光旅行者に快適な時を過ごしてもらうべく緑地(オアシス)を造ってはどうか

村上市・JR・地域住民・関係団体で構成する協議会の立ち上げ

市民のスポーツ、体力づくりの利用から別な使い方です市民が集う青空でのイベント開催
 山形県の芋煮会は有名だが岩船地域も又食の宝庫でありますので食のイベントの開催、まずは地域で楽しむ

・村上駅周辺のマスタープランの作成
 ・マスタープラン作成には時間がかかるので、現在の駅前広場の利用形態について、JRと協議し改善策を講じる

お城山周辺の環境整備

現在の城址会館の活用

仮称「舞鶴城会館」の建設

駐車場と公園の整備(バス道路の開通)

大きな樹木を植えることは不可能であり
 ア) 空き地に公園を造成できないか
 イ) 町内の方々にプランターによる花壇の設置そして育てていただく

大鍋での大海(朝日地区の郷土料理ノッペとも言う)煮大会又は鮭汁での催し

買い物弱者支援

・六斎市、村上大祭の露天市が年々淋しくなっている。
・大型店舗が郊外へ進出し、街の小売業者は店を閉め高齢者が買い物をできない。



(資料2) 生活環境に対する不安

- 市場近くに無料駐車場の確保
- 循環バスを運行しているが一部だけで、広域にできないか
- 出店者への支援
- 裁判所跡を駐車場に
- 市場らしい雰囲気づくり(交通の便も含めて)
- 移動販売等拡大

安心安全な農業生産 生活環境の改善



(資料2) 安心安全な農業生産

・有害鳥獣による農作物被害の増加
・岩船地域は稲作中心の農業形態であり、近年米価は安値で安定しており農家は苦しい経営である。
・畜産が原因と思われる異(悪)臭問題の解消

- 駆除対策等行われているが一時的で限界がある。鳥獣が里山に近づかなくてもよい対策が必要なのでは？
- 先進地に学ぶこと等数年かけてもキチンとした対策を
・地域・行政が一体になって取り組まなければならないと考える
- 悪臭により生活環境に支障をきたしている。発生源の特定と、行政・発生源事業者による適切な対応
- 各種法令等による規制、改善を行わせる。
・行政が本腰で取り組むこと
- 地産地消等審議いただきたい

伝統文化の継承

・村上大祭を一層より多くの住民が参加できるものにならないか？

その他

・自治振興課の職員が1年間かけて、各地域の組織ごとに意見を聞き取り、アンケートを取り、集約した現状と課題のとおり
・地域審議会で審議された事項がこれまでの市政にどのように反映されたのか？
・区長会、各種団体(協会)との意見が具体的にどのようなになっているのか
(年に数回会議で村上市(地区)の現状を分析することすら難しいのでは)
・瀬波トンネルから先、瀬波小学校に通じる道路はいつできるか？(環状3号線)



まちづくりで計画した具体的な対応策に基づき実施している

予算の範囲内で可能なことから実施している。例えば、津波に備えた避難路の整備など